

講義コード	14D1010000
講義名称	産業構造論Ⅰ <春>
科目英文名	Japanese Industries Ⅰ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2600
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
義永 忠一

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 ディスカッション(話し合い)
---------------	--

講義・演習概要	日本経済を取り巻く環境は、常に変化の中にあります。アベノミクス以降の為替変動（円安）でも輸出が伸び悩み産業構造が変化したと指摘されました。そして2020年に起こった新型コロナウイルスの感染拡大による、「新状態」への模索があります。さらに2022年ロシアによるウクライナ侵攻、2023年には中東パレスチナにおける混乱により、世界秩序・経済秩序が変化しつつあります。産業構造論Ⅰでは、これまでの日本の産業構造に関する議論を丁寧に追いながら、現在に至る道筋を説明します。そして、受講者とともに今後の方向性を議論していきます。
学習（到達）目標	産業構造に関する議論を、歴史的な背景とともに理解できる事を学習目標とします。

講義・演習計画

回	内容
第1回	産業構造論Ⅰについて－講義概要と評価方法について－その1
第2回	産業構造論Ⅰについて－講義概要と評価方法について－その2
第3回	産業構造とはなにか ー政策の視点ー
第4回	経済自立期の構造と政策ー官の役割ー
第5回	経済自立期の輸出産業の存在ー民の復興ー
第6回	1960年代の日本経済 ーモータリゼーション前夜ー
第7回	1970年代の日本経済 その1ー開放政策 官民の温度差ー
第8回	1970年代の日本経済 その2ー石油危機下の経済変動と政の存在感・日本的生産システムの確立を捉えるー
第9回	環境変化と産業構造 (1)ー日本的生産システムと情報化ーその1
第10回	環境変化と産業構造 (2)ー日本的生産システムと情報化ーその2
第11回	環境変化と産業構造 (3)ー国際化・グローバル化ー
第12回	環境変化と産業構造 (4)ーブラザ合意・バブル経済ー
第13回	環境変化と産業構造 (5)ーバブル崩壊後～2001年頃ー
第14回	失われた20年から現在までとこれからの産業構造
第15回	産業構造の変化と日本経済（まとめ）と試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	<p>試験【60%】：論述による試験を実施します。各講義で提示されるテーマについて、その都度、学習する事が試験において重要となります。</p> <p>その他【40%】：WebClassを通した課題を課します。</p> <p>その他【40%】の取り扱いについては、第1回講義内で詳細をお伝えします。</p>
---------------	--

参考文献	鶴田俊正/伊藤元重（2001）『日本産業構造論』NTT出版を、本講義では中心に取り扱っています。しかし、最新のデータ及びこれまでの研究を補足しながら講義を展開しますので、参考文献として挙げます。
事前および事後学習の指示	事前に、貿易収支等、新聞等で掲載される経済統計について目を通しておく事が、講義の理解に役立ちます。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	産業 構造 転換 歴史 生産システム

講義コード	14D2610000
講義名称	社会思想史Ⅰ <春>
科目英文名	History of Social Thought Ⅰ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	PHIL1400
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
梅田 百合香

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	本講義では、西洋の古典古代から近代および現代の代表的な社会思想を分析することによって、人間性、市民的徳、共和主義などを中心に、民主主義が持つ根源的な問題と現代的課題を考察する。
学習（到達）目標	受講者は、広く経済学に関わる思想史上の専門的な知識を身につけることを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義ガイダンス ソクラテスの問い（1）ソクラテス裁判
第2回	ソクラテスの問い（2）無知の知
第3回	第1回試験およびまとめ
第4回	プラトンの哲人王（1）正義の追究
第5回	プラトンの哲人王（2）哲人王の構想
第6回	第2回試験およびまとめ
第7回	アリストテレスの倫理学（1）倫理学の方法と対象
第8回	アリストテレスの倫理学（2）徳の探究
第9回	第3回試験およびまとめ
第10回	アリストテレスの政治学（1）ポリスと人間
第11回	アリストテレスの政治学（2）国制論
第12回	第4回試験およびまとめ
第13回	キケロの共和主義（1）正義と慈善
第14回	キケロの共和主義（2）共和主義
第15回	第5回試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
----	------

レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	<p>5回の小テストにおいて、学習目標に対応するテーマに関する選択式問題を出題する。</p> <p>この5回のテストで、授業内容を踏まえた専門的な知識が身についているかどうかを評価する。</p> <p>5回以上欠席した場合（公認欠席は含まない）、成績評価対象外となるので注意すること。</p>
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						テキストは使用しない

参考文献	<p>山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009年。</p> <p>宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年。</p> <p>仲正昌樹編著『政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで』法律文化社、2013年。</p>
事前および事後学習の指示	<p>各思想家について、参考文献の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。</p> <p>講義中はノートを取り、授業後スライドの内容と照らし合わせて講義内容をノートにまとめ直し、復習しておくこと。</p>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	17N3260000
講義名称	比較文化研究-インドネシアと日本の音楽文化A <春>
科目英文名	Study of Comparative Cultures-The Music Cultures of Indonesia and Japan A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2460
単位数	2.0
時間割	春学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
由比 邦子

授業形態	講義	<p>実務経験のある教員による授業①</p> <p>楽器博物館で民族楽器の調査・研究に携わった経験を持つ教員が、インドネシアと日本の楽器について解説する。</p>
------	----	---

アクティブラーニングの詳細	<p>※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。</p> <p>小レポート/小テスト</p>
---------------	---

講義・演習概要	<p>インドネシアと日本は地域も民族も文化も異なるが、東南アジアもしくは東アジアの域内における位置関係、さらにインドもしくは中国という古代の大国の影響を色濃く受けているという点で共通性がある。そして、両国の音楽文化には明らかな類似性、またその反面、似て非なる相違点が見られる。本講義では、音楽の演奏形態と楽器に特に焦点を当てて、両国の古典音楽の諸相を対比させて論じる。加えて古典音楽とポピュラー音楽の関わりについても取り上げる。</p>
学習（到達）目標	<p>音楽は、それを生み出す人間が属する文化の脈絡内で理解しなければならない。したがって、「音楽は世界共通の言語ではない」ということを説明できるようにする。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	音楽から見たインドネシアと日本の文化的背景
第2回	多様な楽器から成る日本の合奏形態（雅楽）
第3回	音の同質性を特徴とする日本の合奏形態（長唄）
第4回	音の同質性を特徴とするインドネシアの合奏形態（ガムラン）
第5回	ゴングの生成と発展
第6回	ゴングの組み合わせ奏という発想
第7回	金属楽器と竹楽器の関係
第8回	ドレミファンラシドではない音階
第9回	型の組み合わせによる"創作"
第10回	戦争を媒介とする音楽の伝播
第11回	ポピュラー音楽をも巻き込む古典音楽のパワー
第12回	一直線にやってきた弦楽器
第13回	幻の弓形ハーブ
第14回	日本とインドネシアの交差点としての木琴
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（コメント）	第15回に実施する試験70%、不定期に計5回実施するミニテスト30%
---------------	------------------------------------

参考文献	月溪恒子『日本音楽との出会い 日本音楽の歴史と理論』（東京堂出版） 皆川厚一編『インドネシア芸能への招待 音楽・舞踊・演劇の世界』（東京堂出版） 福岡まどか『インドネシア上演芸術の世界 伝統芸術からポピュラーカルチャーまで』（大阪大学出版会）
事前および事後学習の指示	前回の授業内容の確認を事前学習とし、授業ノートの整理および授業内容に関連する音楽チェック（YouTubeなど）を事後学習とする。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	音楽 楽器 雅楽 長唄 ガムラン ゴング